

万葉図書・情報室だより 62号

万葉植物について

NHK朝ドラ「らんまん」も好評のうち最終回を迎えましたね。主人公、榎野万太郎のモデルは植物学者の牧野富太郎さん。万葉図書・情報室にも『原色牧野植物大図鑑』など、牧野博士の本が何冊かありますので、博士が描いた植物画などを見ることができま

す。その中で注目されるのが、昭和23年7月発行の『続牧野植物随筆』です。平成26年に故・小清水弘一さん(京都大学名誉教授)から当館に寄贈された本ですが、昭和23年8月30日に「牧野先生より贈呈せらる」との書き入れがあり、発行後、すぐに小清水さんが牧野博士から受け取られたことがわかります。

植物について持論を述べた随筆集ですが、牧野博士は『万葉集』にも造詣が深く、『万葉集』に在る山ヂサとはどんな植物乎(か)という随筆も掲載されています。

山萑(やまぢさ)の 白露しげみ
うらぶれて 心も深く わが恋止ま
ず

柿本人麻呂歌集(巻11・2469)

―山萑が、白露でしとどにしおれるように、心の奥深く、うちしおれて恋しつづけることだ。―

『万葉集』に2首詠まれている「やまぢさ」は通説ではエゴノキと言われています。牧野博士は「日蔭の湿潤な岩壁に着生」し、「水滴を帯ぶれば其露の重みで花體(かたい)が其葉と同様に一層首を俛(たれ)る」という生態を持つ「イハ(ワ)タバコ」こそが万葉歌に「白露しげみ」と詠まれた「やまぢさ」ではないかと、エゴノキ説を「断乎として否定」しています。

また、「萬葉歌のアフヒは葵でなく蜀葵(タチアフヒ)である」という随筆も収められているので、ぜひ読んでみてください。

万葉図書・情報室には他にも万葉植物に関する本がたくさんありますので、いろいろな説を読み比べてみるのも楽しいですね。

さて、万葉庭園では四季折々の万葉植物を鑑賞することができます。8月下旬には、杉岡華邨さんの歌碑近くの

ススキの根本にナンバンギセルの花が咲いていました。



道の辺(へ)の 尾花が下の 思ひ草
今さらさらに 何をか思はむ

作者未詳(巻10・2270)

―道のほとりの尾花の下の思い草のように、今さら改めて何を思いましたか。―

「尾花が下の」とあるのは、「思ひ草」が尾花(ススキ)の根本に生え寄生する生態を歌っていて、ナンバンギセルのことではないかと言われています。花茎を直立させて紅紫色の花が咲きますが、全体の形が南蛮人が持ち込んだ煙草のキセルに似ているので名付けられました。15cmくらいの小さな植物です。見そびれてしまった方は来年の初秋にご覧になってください。

※万葉歌及び口語訳は中西進『万葉集全訳注原文付』による。

〈参考文献〉

『万葉植物文化誌』

(木下武司/八坂書房)

『万葉の花 四季の花々と歌に親しむ』

(片岡寧豊/青幻舎)

『万葉の花と西宮』

(清原和義/西宮市文化振興財団)

おはなしの森を開催

万葉図書・情報室では「にぎわいフェスタ秋」の一環として、11月3日(金・祝)に「おはなしの森」を開催します。紙芝居や絵本の読み聞かせを予定しています。お子さんやお孫さんといっしょに、ぜひ遊びにお越しください(事前申し込み不要)。



※なお「おはなしの森」開催当日のレファレンス・コピー等はお待ちいただく場合がございます。ご協力よろしくお願いたします。

剝 開 寮 肉

図書室のご利用は無料です。

閲覧のご利用になります。

開館時間：午前10時～午後5時半

休館日：月曜日(祝日の場合は翌平

日)・年末年始・展示替日

コピーサービス：白黒 1枚10円

カラー1枚50円

奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室

奈良県高市郡明日香村飛鳥10

0744・54・1850(代)